

道産「亜麻」から 健康サプリメント

●亜麻公社

明治から昭和にかけて北海道で栽培されていた「亜麻」を使った健康サプリメントが商品化され、話題を呼んでいる。

亜麻は中央アジア原産のアマ科の一年草。古くから繊維として使われ、北海道は栽培に適した気候であったことから、明治から昭和40年代ごろまで道内で広く栽培されていた。

札幌にある「麻生」という地名もその名残。一時は道内に85カ所もの亜麻工場があったが、終戦後、化学繊維が主流となり亜麻畑は姿を消した。

この亜麻栽培を約40年ぶりに復活させ、商品開発を行っているのが、道内企業3社による新連携事業「北海道亜麻ルネサンス」プロ

価格は4830円
(180粒入り・
1カ月分)。下
は亜麻の花



ジェクト。その中核を担っているのが亜麻公社（札幌、橋本眞一社長）だ。

同社は亜麻からとれる油、亜麻仁油（あまにゆ）が健康によいことに着目。道内で栽培された亜麻を使った「亜麻仁油サプリメント」を開発した。

「油が体に悪いというのは間違いで、摂りすぎると生活習慣病を引き起こすサラダ油などは違い、体の働きを調節する『摂らなければならぬ油』もあるんです。代表的なのは青魚から

とれるDHA。亜麻にはこのDHAと同じn-3系脂肪酸の一種、αリノレン酸が多く含まれているんです」と同社の内藤大輔氏は話している。

現代の食生活で不足しがちなn-3系の油を補うことで、コレステロール・中性脂肪を低下させ、生活習慣病を予防できる。更年期障害の軽減、二日酔いにも効果があるとの報告もされている。

サプリメントの先進国、アメリカでは数年前からこの亜麻がブーム。日本でも輸入品が出回るようになったが、同社のものは無農薬栽培の原料を使っているため安全性が高く、酵素が死なないように非加熱のまま搾油しているため、効き目が違うのだという。

価格は180粒入りで4830円。2005年に販

売開始し、昨年は約700万円を売り上げた。「亜麻を栽培することで豆や麦の連作障害を防げるし、青紫色の亜麻の花は景観が

よく、観光資源としても期待できます。亜麻の栽培を通じて日本を元気にしていきたいですね」と内藤氏は語っている。